

平成22年度 静岡市食の安全・安心意見交換会

平成22年9月7日（火）

【三輪座長】 東海大学短期大学部の三輪でございます。ご指名いただきましたので座長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今日は交換会ということで、これから予定では4時まで、途中、休憩等を挟みまして90分ほど意見交換の時間があります。この意見交換会に当たりまして、事前に皆様から意見調査票をいただいております。皆様のお手元にあると思うんですけども、これは非常にボリュームが大きいので、全部これを細かくやっていくと時間がなくなってしまうと思います。

この資料の4ページを見ていただくと、今回の意見交換会のポイントというのがあります。先ほど部長のあいさつにもありましたけれども、今回、この3年間の計画になっております。今、1年半過ぎたところでいろいろなご質問、ご疑問点があると思いますので、それをただしていただくのはもちろんなんですが、やはり今までを総括して今後の取り組みに修正とか提案をいただきたいというのが事務局の一番の願いなんだろうと思います。ご質問に答えていただいてその疑問点を解消していただくというのはもちろんですけども、できるだけ今後のこのアクションプランの提案になるような形でまとめていければというのが私の考えですので、短い時間ですけどもご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、調査票でご質問をいただいておりますので、資料の順番どおりに一応、一つずつやっていきたいと思います。

最初に消費者協会の伏見委員からご意見をいただいておりますけれども、簡単に説明をしていただけますか。

【鶴留委員】 しずおか市消費者協会の鶴留です。

今年は10月8、9、10と消費生活展を開催いたしまして、その中で食の安全とか安心について取り組んでいるグループがあるものですから、皆さんに広く知っていただきたいということです。ここのグループは地産地消を目的としていまして、野菜をつくるに当たってまず土からということで、子供さんを呼び込みまして、土から種をまいて野菜をつくることをやっております。そういうことをまとめたものを生活展で発表しますので、皆さん、よろしかったら、よろしかったらじゃない、ぜひ10月8、9、10、生活展で発

表しますのでごらんになっていただきたいと思います。

野菜の名前を知らない子も多いんですけれども、そうやって土からやりますと覚えまし、草取りもやっていただくんですけれども、お母さんの中には何で草をとらなくちゃいけないのというお母さんもいるということなんですけれども、おいしいものをつくるためにはやはり草取りも必要ということを知っていただきたいと思いますので、皆さん、よろしく願いいたします。

【三輪座長】 ありがとうございます。

アクションプランについては特にということはないと思いますけれども、これは前の意見交換会でも出たんですけれども、消費者は消費するだけでなく生産現場のことについてもやはり知ったほうがいいのではないかという意見もよくありました。非常に重要なことだと思いますので、今、委員のほうからありましたように10月8、9、10という消費生活展のほうにも積極的に参加していただければと思います。

よろしいでしょうか。

【鶴留委員】 ありがとうございます。

【三輪座長】 続きまして、小菅委員からご意見いただいていますのでよろしくお願いいたします。

【小菅委員】 食生活改善推進協議会の小菅です。3点ほど書かせていただきました。

まず取り組み状況報告というこんなのをいただいたんですが、この中で1番目として、エコファーマーの推進が、平成20年度の実績が500人でしたが21年度は334人で、コメントに事業制度上の問題や近年の経営環境により大幅に減少とありますが、これはどうということなのでしょうか。今後、ますますエコファーマーへの期待が高まってくると思われますが、逆行しているように思われます。

2つ目は、この冊子の7ページのアクションプランの体系の中で、「トレーサビリティシステムの導入、推進」というのがあったんですが、報告の段階で抜けていたのでちょっと記入をしました。「トレーサビリティシステムの導入、推進」が報告書の中で抜け落ちています、これは十分普及しているので21年度の施策から外したのでしょうか。現段階での導入状況をお知らせください。

3つ目として、鶏卵、蜂蜜の収去検査が14件とありますが、先ごろ8月20日の新聞とか報道でしたけれども、アメリカで出荷した卵がサルモネラ菌に汚染され食中毒の原因となった疑いがあるとして3億8,000万個が回収されることになったという報道にな

りましたが、サルモネラ菌の対策はどのような方法があるのでしょうかということで、3つ書かせていただきました。

【三輪座長】 ありがとうございました。

それぞれについて答えていただけたところがありますでしょうか。まずエコファーマーから。農業振興課さんになるのでしょうか。

【農業振興課】 農業振興課です。

お尋ねの内容ですが、「事業制度上の問題」と書かせていただきました文言が適切であるかどうか、若干、難しい問題だと思っておりますのは、現在、本市のエコファーマーの皆様は、お茶の生産農家ということでございます。お茶というのは、現在、叫ばれております農業の6次産業化という意味では非常に先端を行っている部分ではないかと思っておりますけれども、生葉から荒茶に加工し、荒茶から仕上げ茶に加工し出荷される、消費者の皆さんの手元に届くという製品でございます。

農業者はエコファーマーとして登録をさせていただきますけれども、実際に消費者の皆さんの手元に渡るときは、生葉ではなくて荒茶に加工され、さらに茶商等により仕上げ茶に加工された形で提供されるということになりますと、農業者自身がその製品に対してエコファーマーであるという認定マークを商品につけることができないという課題がございます。例えばそのものをじまん市とかに出すとかということであれば問題ないんでしょうけれども、お茶の場合、そういう流通過程が非常に細かく分かれているという中では、エコファーマーであるということに対する農業者自身のメリットがどうであろうかということころは若干課題があるかと思っております。

経営環境のことなんですけれども、ここ数年、特に私どもの場合はお茶農家が多いということもございまして茶葉の低迷が非常に厳しい状況にあるということがございます。これは消費チャンネルの多様化といいましょうか、いろいろなところからお茶を買うことができる、そういった意味合いで特にスーパーさんとか、今まではお茶の小売店舗から皆さん方もお茶を買うケースが多かったかと思うんですけれども、最近はいろいろなスーパーさんであるとか、あるいはインターネットを介して、そういう形でお茶の流通がされてきました。そういう中で、低価格化が進んでまいりまして、現状の中では、お茶農家の生産のいわゆる損益分岐点という言葉から考えると、中には肥料代、農薬代を払えないんじゃないかという農家さんも年ごとに出てきている状況にあるというのがまずは全体にかかわる問題かと思えます。

エコファーマーについては当然、我々も認定をさせていただいているわけですが、私どもとしましてはそういったものも含めまして、茶どころ日本一条例に基づいて茶どころ日本一計画を今年度策定しましたので、全体の底上げというところから図っていくことがまず必要になるのではないかと。決してエコファーマーというものに対する認識がないということではなくて、むしろそういう全体の底上げの中で当然、農業の6次産業化とか食の安心、安全という視点というのはこれからますます強まってまいるとことは我々も認識してございますので、静岡市での茶業の全体の底上げを図る、またそういったものが回復してきていただけるというふうに考えているところです。

以上です。

【三輪座長】 よろしいでしょうか。

【小菅委員】 はい。

【三輪座長】 ちょっと私から質問なんですけれども、後ほど大塚委員のほうもエコファーマーのこれについて質問があるんですが、今、お茶農家が大多数ということだったんですが、ほかの作物をつくっている農家にとってはエコファーマーというのはあまり魅力のないものなのでしょうか。

【農業振興課】 というよりは、静岡市の農業全体の構造がやはりお茶に大多数を頼っているという部分があるというところだと思います。静岡の第1位の農業生産額はやはり圧倒的にお茶でございまして、お茶プラス何か、という形の経営形態が多いので、主体はお茶ということもある、そういうことでございます。

【三輪座長】 わかりました。ありがとうございました。

それでは、トレーサビリティシステムが抜け落ちているということなんですけれども、この辺は生産から消費者までということ、農業振興と食品衛生とずっと絡むのかと思いますけれども、この辺は報告書にないのはなぜかということなんですけれども。

【事務局】 そうしましたら、事務局よりお答えします。

「トレーサビリティシステムの導入、推進」というのは、ここで指摘がありましたように7ページ、アクションプランの体系のほうにあります。基本方針の次の基本的な取り組み項目の中にありますが、本文のプランの中には確かにありません。

これはなぜかといいますと、基本方針と基本的な取り組み項目、これを定めましたのは平成15年度なんです。この基本方針、基本的な取り組み項目に従って毎年、アクションプランを策定しているわけなんです。その当時は、この食品安全基本法自体がB

SEを契機に設立したという経緯もありまして、農畜産物のトレーサビリティに大きく動いていったらしいです。ということで、基本的な取り組み項目の中にもこれが盛り込まれたんだろうと思いますが、その後、ご存じのように牛ではトレーサビリティシステムが稼働しておりますけれども、ほかのところはまだです。市のほうとしてもトレーサビリティの事業というのが、これは国から、農水省のほうからおりてくる形になると思うんですが、それが何も来ていないので、アクションプランのほうには市の事業としてはトレーサビリティの事業は21年度から24年度の計画には盛り込まれていませんということではないかと思いますが、農業振興課さん、そうですね？ ちょっと違います？ 特に農作物はトレーサビリティ事業ではおりてきていないですよ。

【農業振興課】 農業振興課です。

トレーサビリティ自体が農業業界のほうで当たり前のように行われていますので、もう農協さんとか、業界のほうでその辺はしっかり管理をした中で生産、出荷をするという体制になっておりますので、特に行政がこれに対してチェックをするということ、うちの農業振興の立場としてやっているということは特にはないです。

【三輪座長】 よろしいですか。

ちょっと意見を言いたいんですけども、先ほどの部長のあいさつにも出ましたように食品の安全・安心のためには行政もいろいろな分野にかかわっているものが協働してということをやっとおっしゃいましたけれども、今回のこの質問票も事前にあったのでできれば食品衛生課さんなり、農業振興課さんなり、もうちょっと話し合っただけで意見をまとめてから発表していただけたらともっとわかりやすかったかと思います。その辺も、せっかく事前に調査表を回収しているのもうちょっと歯切れのいい回答をお願いしたいと思います。

最後の鶏卵、蜂蜜のことですけれども、これは食品衛生課さんのほうになるんでしょうか。アクションプランには直接関係ないかと思いますが、コメントがありましたらお願いします。

【食品衛生課】 食品衛生課です。

アメリカのこの3億8,000万、最終には5億近辺の卵の回収があったみたいですが、アメリカの特徴として1つの鶏舎でつくられる卵の数、全体でもアメリカ全土で200ぐらいしか卵の生産工場がない。だから、そのうちの1カ所でも汚染卵をつくってしまうと何億個という形での回収が起こってしまうことになります。

これはFDAが出している最終報告ではないんですけども、鳥に加えているえさの中

に原因が入っていて、鳥自体が大量にサルモネラにかかってしまったのではないか。卵自体が、ちょっと汚い話でごめんなさい。肛門と同じところから出てくるという鳥のシステムなものですから、サルモネラに感染した鳥から生まれた卵にはもう完全にサルモネラに汚染された卵が出てきてしまうということがありまして、アメリカのシステム上で、鶏卵全体が汚染されている。規模に関しても、1つの農場でそういうことが起こると莫大な量になってしまうということで、被害的には非常に広がってしまったということになります。

日本でも結局同じことが言えるんですけども、規模が小さいということでそんなに極端に大げさなことになることはありません。ただ、何年か前かティラミスで、生の卵を使う食品でサルモネラの食中毒が全国的に広まったという時期もありますので日本の鶏卵がすべて安全というわけではないんですが、アメリカのように大きくなるようなことはないということ。それと、日本の場合にはG Pセンターみたいなところで卵を集めて洗ってから出すというシステムがある程度できていますので、外側が汚れているから直すということはないような気がします。

アメリカの場合は、今度は逆に生の殻のままで売られるよりも基本的に割って殺菌をして缶詰みたいな格好、ビニールパックに入れて牛乳みたいな格好で売られる卵もいっぱいありますので、システム的な違いもありますけれどもそういう中で汚染された卵を回収しているということになります。

基本的には、買う皆さんに関してはあくまで卵はサルモネラに汚染されている可能性が高いことを理解していただいて使っていただく。生卵を食べる習慣があるものですから、外も洗っているという事実があるので非常に危険は少ないですけども、卵を使うときは、生食用としてそれなりに管理されたものは別かもしれませんが、そうでないものに関しては必ず火を通してということを進めることが予防の第一かと考えております。

【三輪座長】 ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

いつでしたか、もう10年ぐらいになりますか。卵に基準ができて生食用には消費期限がつくようになっていきますので、生食に関してはやはり消費期限を見ていただいて期間内を食べれば多分、大丈夫であろうということだろうと思います。

続きまして、耳塚委員のほうからたくさんご意見をいただいておりますので、簡単に説明をお願いいたします。

【耳塚委員】 5点ありますが、1番目についてはお読み取りいただきたいと思います。

2番目は、アクションプランのこの1年間の取り組みですけれども、基本的に食中毒を出さない等といった食品衛生、基本的でかつ一番重要な部分についてトレーサビリティやリスクコミュニケーション、そういった今日的課題についても部局を横断して取り組むといったことについては非常に有意義なお取り組みであると感じます。

3番目以降、どちらも最後に今後の取り組みへの提言という形になります。その今日の課題に加えてということで、持続可能な生産というのをひとつ真剣に考えないといけない時代に入っているのではないかと思います。

ご存じのように第一次産業従事者が高齢化してなかなか跡継ぎがないという問題があちこち、日本各地で起こっています。これはほんとうに基本産業の存亡にかかわる危機に瀕しているということで、そういう意味では静岡市においても地産地消の取り組みを重視しているということについては大変意義があると思いますが、ただ1点、裕福な国になった背景の裏腹で農業が非常に隅に追いやられてきたという経過があります。それから、所得の格差の問題が社会問題になっていますが、やはり流通業としてひしひし感じているのは、購買動向として低価格ヘシフトしている。これは紛れもなく今後も続いていくだろうということであって、この問題については限界性もあって一筋縄ではいかない問題だと認識しています。

持続可能な生産に加えてですけれども、グローバルな視点ではフェアトレードという言葉があります。日本でも始まって何年か経つのですけれども、宣伝ではないですけれども、コープでもフェアトレードバナナを販売していますし、チョコレートとか、コーヒーそういったものもこれから開発していくことになります。これは公平取引、あるいは公正取引と言いまして、その国の生産が持続可能になるように経済的な援助も含めてやっていこうという中身です。

もう1つ、深刻な問題として児童労働ですとか、ともすると奴隷労働、強制労働をさせる中でこういった製品が生産されて先進国に入っていくという事態があります。そういうものをなくしていくためにフェアトレードをやっていきたいと思います。ということで、かなり欧州では活発に行われているということなんですけれども、こういった内容、フェアトレードの取り組みを行政としても奨励していくことが静岡市民の食の安全・安心に貢献できるのではないかと思います。

それをさらに担保するということで、グローバルコンパクトという取り組みがあります。

ここでは自治体の取り組みでは川崎市、さらにいろいろな企業、団体がこの取り組みに参加しているわけなんですけれども、いわば人権侵害を起こさない、自治体でいえば腐敗を起こさないという仕組みをつくっていかうということです。これも静岡市として、食品の分野において、生産の分野においてそこで働く労働者の人権が侵害されていないことを保障することで、食品の事故や偽装を未然に防ぐということ、こういったことも食の安全・安心に担保するための有効な手段かと思います。

なかなかわかりづらい中身になったと思いますので、少し補足しますけれども、コープは、もう3年目になるんですけれども、餃子事件で非常に大変ご迷惑をかけました。日本に注入されたのではないかという話があったんですが、結果的には中国でその商品が販売されて、やはり中国で混入されたということになりました。2人の犯人がつかまったわけなんですけれども、このことについていっそう(理解を)深める必要があるのかと思います。

中国製品が悪いということでこれでストップするというのはまたちょっと違うのではないかと思いますし、かといってこの2人の犯罪について容認するというわけではないんですけれども、そこで働く人たちの労働実態が非常に極めて劣悪な状態で働かされていたと。それに対してコンチクショーという形で、全く関係ない形で事故が起きた、こちらの日本のほうで起こったんですけれども、そういう経過の中で食品の事故が起こっているという意味で、労働者が働く人権というのをきちっと確保することが大事だと思います。

これは中国だけではなくて日本の食品の偽装についても同じようなことが言えます。各社、具体的な会社名は挙げられませんが、共通しているのはボス支配の食品会社なんです。悪いことをやっていたとしてもそれを、悲しいかな、外部通報という形でしか、外部に出すという形でしか通報できなかったという結果なんですけれども、内部で自浄できない、自分らで変えていけないという、何かモノを言えば解雇される、首になっちゃうということで、偽装というのはそういう実態がある中ではなかなかなくなる。そういう意味では、中国にしても国内にしても、働く人の人権をきちっと守っていくことが食の安心、安全にとって非常に重要な問題だと思っています。

【三輪座長】 ありがとうございました。

大変大きなというか、食の安心、安全を守るために根本的な部分のお話だと思うんですけれども、まとめますと、食品衛生、トレーサビリティ、コミュニケーションについて、部局を横断してやっていることについては非常に共感できるということだったと思います。それに加えて、持続可能な生産ということでフェアトレードとかグローバルコンパクトと

いうことをお話になってくださいました。

ご存じのように、日本は食糧自給率がカロリーベースで40%を行ったり来たりという状況で、今年のような異常気象で、干ばつでまた食料生産が危ういということになると、安全はもちろんなんですけれども、量的な確保みたいなことについても非常に不安があるわけです。そういう中で、耳塚委員の今の持続可能な生産ということは非常に重要なことで、それがなくして食の安全は守られないんだろうと思います。

これをただ、今日の目的はアクションプランの今後の展開といいますか、それについての意見交換なんですけれども、これは非常に重要なことなんですけれども、静岡市として例えば具体的にこういう方向でやったほうがいいんじゃないかとか、こんなことができるんじゃないかということがもし、今、多分、話をされて皆さん、そうだとは思っていても、事務局の人も具体的にどうしたらいいんだろうかとイメージがつかめないんだと思うんです。具体的に、例えばこんなことということがもし、あるいは市もできることというもので提案みたいなものがあればちょっと話していただけるとありがたいんですけれども。

【耳塚委員】 具体的にということなんですけれども、これはなかなか大きな問題だということを承知で、事務局さん方も承知で提言をさせていただきました。地場産品はともかくとして、外国産品についても、フェアトレードについて奨励するとか、あるいはそれについての理解を広めようとか、そういったことについてはすぐできる、と思っていますけれどもいかがでしょうか。

【三輪座長】 ありがとうございます。

ほんとうに非常に大きな問題、ただし非常に重要な問題だと思うんですけれども、今、この場の限られた時間の中でこれを詰めていくのはなかなか難しいと思いますので、耳塚委員にはちょっと大変かもしれませんが、もし事務局のほうで何か考えてまた相談させていただくことがあれば適宜相談しながらやっていただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。そんなところでぜひよろしく願いいたします。これはやはり非常に重要な問題、ある意味、量的確保も含めて食の安全の根幹にかかわる問題なのかと個人的には思いました。

次に大塚委員から調査票をいただいていますけれども、今日は欠席なので私のほうから質問させてもらっていいですか。

大塚委員は、見させていただきますと、この冊子の表紙の写真に問題があるんじゃないかというご意見でしたけれども、ちょっとおしゃれなランチみたいな写真ですけども、

食の健康を推進するための冊子にはどうかという意見がありました。

あとは、20年度のものに比べて図表、写真、簡潔な文書からとても見やすいものになっていると思いますけれども、どういう方々に、あるいはどういう対象の人に配布するのですかという質問がありました。

先ほどもありましたけれども、エコファーマーの認定を取得することを特にメリットと感じていない農家が多いのではないのでしょうかということですが、実際、推進をどこに向かって発信しているのですかという質問、あるいは認定者の取得後の継続のための資格の確認はどうなっているのでしょうかということなんですけれども、もし答えていただけるとするとこれはどういうところに例えば配布していくものになるのでしょうか。簡単に。

【事務局】 この冊子ですけれども、対象としては全市民です。もちろん消費者の方、生産の方、事業者の方にも配布します。どんな方でも読んでいただきたいというのがありますし、また静岡市だけでなくほかの都道府県の方、具体的にほかの都道府県に配布するという事はないんですけれども、例えば食品安全委員会なんかの全体会議にこういったものを持って行って、ほかの都道府県の食品安全にかかわる方を通じて発信したい、そういうことも考えております。

【三輪座長】 市民の方、例えば発送するとかではなくてどこかに置いておくという形になるのでしょうか。市役所に置いておくとか、こういった施設に置いておくとか。

【事務局】 そうです。具体的に、保健所にはもちろん置いてありますし、市の情報コーナーですとか、そういったところにも置いてあります。

【三輪座長】 わかりました。ありがとうございました。

エコファーマーのことで実際、推進をどこに向かって発信しているのかということのと、認定の継続のための資格確認はどうなっているのかということなんですけれども。

【農業振興課】 エコファーマー、最初にメリット論、先ほどちょっとお話をさせていただきましたけれども、もうちょっと細かくお話しすると、やはりお茶農家なんですけれども、静岡の場合は急傾斜地を使つての茶園栽培が特に平坦地で行っている鹿児島などに比べると非常に多いわけです。当然、それに対する生産コストというのがかかってくるわけなんですけれども、エコファーマーという認証をいただいてそこにメリットを求めて、当然、単価的にもっと高い単価での取引を希望するわけなんですけれども、現状は茶葉の低迷に伴いましてそのメリットを受けてもなおかつ損益の部分で非常に厳しい状況にあるという現状

においてはエコファーマーが減少している要因になっているのかと我々、考えているところ です。

そうは言いましても、エコファーマーというものは今後、必要であるということについ ての認識に変わりはありませんので、私どもといたしましては県中部農林事務所である とか J A さんと連携をとりながら、対農業者の皆様に対してはこういう制度もござい ますということでの P R をさせていただいているというのが 1 つ。

対消費者という面では、これから秋口になりますと農業祭とか、いろいろな農業フェア とか、いろいろなイベントで消費者の皆さんが直接農産物に触れる機会がたくさんござい ますので、そういった機会を通してエコファーマーについての P R をさせていただい ているところでございます。

認定後の継続に関しましては、5 年でエコファーマーの認定期限というのは切れるもの ですから、中間点の 3 年目において実施状況の確認をさせていただきまして、5 年たちま すと今後の継続についての確認をさせていただいているというところでございます。

【三輪座長】 ありがとうございます。

それでは、深沢委員のほうから 2 点ほど調査票、質問をいただいておりますので、簡単 に説明をお願いいたします。

【深沢委員】 ヤヨイ食品の深沢です。

まず環境保健研究所様のところで、昨年度の実績で残留農薬等の検査項目を増やす、そ の検討とありますけれども、現在、何種類の農薬の分析ができて今後、今年度になります か、どの程度まで増やすご計画なのか、それと現在、分析できない農薬はどうしているの かというのをちょっと教えていただきたいと思います。

もう 1 点が食品衛生課様のところで、食品表示モニターの委嘱とありますけれども、こ の食品表示モニターの方たち、どのような方たちに委嘱されていて、その方たちの活動内 容を少し教えていただきたいと思います。

よろしくお願いします。

【環境保健研究所】 それでは、環境保健研究所ですけれどもお答えいたします。

まず数字のほうですけれども、前年度、平成 2 1 年度の残留農薬を分析して報告してい る数が 1 4 3 物質でございます。ちなみに今年度、平成 2 2 年度は 2 1 0 項目まで増やし ております。ちなみに参考ながら平成 2 0 年度は 9 0 項目です。

増やしている理由につきましては、まず分析の機器整備、まず機器が新しくいいもの

が、簡単に言いますといい機械が手に入ってきている、売られるようになってきて、うちのほうも買うことができたという状況がまず一番大きくあります。あと、厚生労働省からの通知等による試験方法そのものが出されてきているということで、随時、増えてきております。

今後につきましてですけれども、農薬の数が実際、幾つあるかということ、日本国内だけでなく世界中で使われておりますので大きな意味で言うと幾つあるかわからないということなんです。ただ、国内で可能性のあるものとして、今、私どもの研究所では800近いものがあるのではないかと把握しております。その中で今210ですから、これが多いか少ないかという検討はまた別になると思いますけれども、将来、どれぐらいまで増やしていこうかということで、期限は区切ってありませんけれども、今のところうちがめどをつけているのは230項目までは近々、増やそうということで努力しております。

これにつきましては、まずむやみに分析しても対外的にその数字が信頼できるのという信頼性確保という言葉がありますけれども、研究所のほうから第三者にその数字を証明することも必要になります。出た数字に基づいていろいろな行政指導とか行政処分に使われる数字ですので、信頼性を確保しながら数を増やしていくというスタンスで今のところ来ております。

特に標準品が手に入らないものになりますともうどうしようもありませんので、まず国内では多分、そういうものは出回っていないというのを前提に考えられるかと思っておりますけれども、そのような中で調査検討というのは、実は今、210項目ですけれども、現実には研究所でもっといっぱい項目をやっております。ただ、それらについてはまだ外に出すほど内部的に精査されていないということで、それらが今後、近いうちには確実なものになれば数を増やしていけると考えております。

以上でございます。

【三輪座長】 ありがとうございました。

食品表示モニターはいかがでしょうか。

【食品衛生課】 食品衛生課です。

表示モニターの方ですけれども、これは一般公募して表示モニターになっていただくという形です。人数は一応、予定は30名ということになっております。形としては、5月あるいは6月ぐらいにまず表示の勉強と資料として『表示Q&A』という本を1冊お渡しして、研修会を1日、開かせていただきまして、その後、大体7月から12月ぐらいまで

の間にモニターの活動をしていただく。活動の方法としては、報告の用紙、あるいはメール等で報告をしていただくんですが、ご自分でお買い物とかそういうときに表示を見ただけということで、1カ月に大体50品目を目安に報告をしてくれということでお願いをしております。

この表示モニターなんですが、うちの課では重要な施策として考えております。我々、行政、保健所、農政事務所、県、そういったところで実際に監視に行ったときに表示の違反を見つけることはもちろんあるんですが、それ以外にも表示の偽装とか不審情報というのは市民からの情報が非常に多いということで、新聞なんかにも出ていると思うんですが、そういう報告があります。実際にそういったことがきっかけで偽装等が見つかるということが多いことがわかっておりますので、そういった市民の方をうまくいって語弊がありますが、我々のほうで指導させていただいて、必要な情報を提供させていただいて、モニターになって監視をしていただければ表示の適正化にもつながるのではないかとということで始めております。

以上です。

【三輪座長】 ありがとうございます。

深沢委員、よろしいでしょうか。

ちょっと私から、余分なことかもしれないですけども環境保健研究所の方に。静岡市の環境保健研究所としてそういう分析項目を増やす努力をされて、調査研究として行っているということなんですけれども、これは多分、浜松市の保健環境研究所も静岡県の環境衛生科学研究所もほかの県、ほかの町の同じような施設のところで多分、農薬の分析はそれぞれがいろいろやっていると思うんです。ちょっとここで聞いても答えに困るんだろうなと思うんですけども、そういうのはもっと、例えば国主導してこの分についてはこの県、この分についてはこの市でやるとか、トータル的にやったほうが分析がうまくいく……。

【環境保健研究所】 県・浜松市と三者で、分析検討会を立ち上げ、データベース化等に努めているところです。

【三輪座長】 ありがとうございます。

途中で10分ほど休憩をとりたいんですが、次の海野俊也委員は、質問項目が非常に多いので、海野委員のご意見にいく前にちょっと簡単に短時間休憩をとって頭をリフレッシュしたいと思います。

どうでしょうか。3時5分ぐらいまででよろしいですか。3時5分ぐらいまで一応、休憩ということで、5分からまた始めるということでもよろしく願いいたします。

お疲れさまでした。

(休 憩)

【三輪座長】 ちょっと時間も押していますので、できるだけ手短にお願いします。

【海野（俊）委員】 すみません。何か質問をということだったもので、急に書いたものでずらずらといっぱい書きすぎたと思います。かいつまんで。

食の安全・安心は我々も新聞紙上でほんとうによく簡単に使っているんですけども、これを見るとほんとうに生産から流通、もちろん消費、さらに加えて教育、さらに監視、相当幅広いものがこれ1冊におさめられていると。これを議論し始めたらとてもじゃないけれども2時間程度では足りなくて、私のこの質問もこの3倍、4倍ぐらいだけれどもとてもじゃないけれどもおさまらないので、思いついただけで申し上げたいと思います。

エコファーマーの大幅減少ということ。今、お茶農家のことをおっしゃったんですけれども、私もお茶の担当をしたことがありまして知らないわけではないんですけれども、確かにお茶はある程度、肥料が必要だ、化学肥料がないとおいしいお茶が育たないということとはよく承知しています。ただ、今、お茶農家さんもレタスとか、ほかの転用作物といたしますか、作物をつくっている。エコファーマーというのは、お茶に肥料を使っている場合はほかに野菜、つくっているレタスについてエコファーマーの認証はできないんですか。静岡市のほとんどがお茶農家ということですので、そういうことをまずお聞きしたいと思います。

HACCPについては、これはちょっとどういうことかと思った。これはいいです。

3番についてもいいです。

4番もいいです。

5番について、こういうときによくあるのは、いろいろ資料収集とか図書の購入というのがあるんですけれども、いつも思うんですけれども、これは果たしてみんな、読んでいるんですか。どのぐらい買っているか、金額が書いていないものでよくわからないんですけれども、中央図書館に置いてあるということなんですが、果たして検証しているかどうか。3年間でどのぐらい買う予定かよくわからないんですけれども、毎年、一定程度買っていて、いろいろな知見が毎年いろいろと出てくることは間違いないんですけれども、そういう新たな知見を次から次へと欲しい人は基本的にはネット上でとっているのではない

か。毎年、こういう図書を購入して果たして意味があるのか、そういう検証があるかどうか。うことはちょっと検証してもらいたいということ。

地産地消を学ぶ講座の開催というのが書いてあるんですが、地産地消の大切さというのははっきり言ってだれでも知っていると思います。「マスコミ」とここに書いてあるんですが、テレビとか、あるいはファーマーズマーケットなんかの、うちの女房なんかはすぐ行くんですけれども、とにかく地元でできた野菜がおいしくて安全だということのはっきり言ってだれでも知っています。今、多分、知らない人はほとんどいないんじゃないかと思っています。十分伝わっているにもかかわらず、料理教室には意味があるのかどうか。

料理教室というのは今、あちこちでやっています、官でやる必要があるかどうか、むしろ民業圧迫になっているのではないかと。もし官でやるとしたら、そういう主産物であるお茶とかイチゴとかミカンではなくて、漁業で発生する未利用魚、流通できないようなお魚、捨ててしまっているようなお魚をどうやったら上手に食べられるのか、そういうことをむしろ教えてもらえるような料理教室であれば意味があると思うんですけれども、単に地産地消を、地元でつくっている野菜を使った料理はおいしいですねというのを子供相手にしても何にしてもやったところで、これ以上の意味があるかどうかというのは非常に疑問に感じています。

農業体験教育事業なんですけれども、正直言ってこれは非常にいいことだと思います。ただ、見る限り子供が対象が多いですね。実は私も今年、ちょっと土地を借りられたもので、初めてなんですけれども農業めいたものを作って、恥ずかしいんですけれども、確かに自分でつくるとほんとうによくわかります。肥料をやらないと味が乗らないとかというのがよくわかってきたし、毎朝、毎晩、水をやってもなかなかうまく育たないし、そういうときに、ただ我々、私なんかはほんとうに素人なもので本を見てやっているわけけれども全然わからなくて、ちょっと教えてくれる人がいるといいなというのが正直なところでは。

なぜそんなことを言うかということ、私が知っているある関係、SBS関係になっちゃうんですけれども、農業講座をやろうとしたんですけれども、今、官の壁というかJAの壁といいますか、土地を借りて農業をやる、農業の教室をやるのは結構壁がなかなか高いみたいです。もしそうであるならば、大人といいますか、今、私も50になっているんですけれども、そういう中高年が家庭菜園、あるいはちょっとした農業を楽しみたい人が増えている。それこそまさに地産地消、自産自消と思うんですけれども、食の安全と

というのが一番ある意味、自分で実感できる場所だと思いますので、もしそういうものがあれば増やしていきたい、増やしてほしいと思います。

見てのとおり遊休地も多い。山間地ばかりではなくて、住宅地にしたって土地が余っているところ、住宅が建てきれないところなんかも少し借りられたらいいかなという、そういうものも行政の力で何とかできないか。そういうものこそ行政がやるこういう講座になるのではないかと思います。

これはちょっと私もとんちんかんなことを言っているかと思うんですが、22年度の新規事業がほとんどこの取り組み状況を見ると見当たらないと思うんですけれども、これは3年間のプランなもので別に新規事業というのは入れなくてもいいのか、ちょっとよくわからないんですけれども、例えば今年の猛暑みたいなものがありまして、こういうときにいろいろなものが異常になっていると思うんですけれども、こういう際に機動的なプランというのが入らないのかという気がします。この取り組み状況報告を書いたときにはまだそんな猛暑ではなかったのかもしれないんですけれども、そういうのが取り入れられたらという、これは単純な質問なんですけれども、そう感じました。

ずらずらあってすみません。簡単にお答えください。

【三輪座長】 ありがとうございました。

すみません。時間がないと言ったものですから随分はしょって説明していただいたんですけれども、とりあえずまたエコファーマーになってしまうんですけれども、お茶以外のレタスとかをつくっている場合に、そちらの作物でファーマーを取れるのかということについてはどうでしょう。

【農業振興課】 そのとおりです。作物別にエコファーマーの認定をさせていただいておりますので、それ以外の作物で認定事業を行うことは可能です。

現在のエコファーマーの認定状況を見ますと約90%の方がお茶という状況なものですから、エコファーマーの人数の部分について先ほどから申し上げているような状況があるということでございますけれども、そのほかの作物について今後、農業者がその生産を行っているという中でエコファーマーを取り入れたいということは全く可能であります。

【三輪座長】 二、三飛ばしていただいてしまって、5番の図書館の利用状況等の検証はどうなっているかということなんですけれども。

【中央図書館】 中央図書館です。よろしくお願いします。

中央図書館をはじめ今12館ございます。12館で所蔵しております図書が225万冊

ございます。これらが1冊あたり平均どのぐらい利用されているかということになりますと、年間で平均約2.05回ぐらいです。ベストセラーとしてもうずっと借りっぱなしなものとは全く借りないものもあるんでしょうけれども、平均すると2.05となります。

ところが、この食の安全に関するようなものがどのぐらいあるのかと調べてみますと、6.5回ぐらい年間借りられていることがわかります。特にその中でも多いものではこの半年近くの間に10回程度借りているような食の安全に関する本もあるということです。1回借りますと2週間ぐらい返ってこないこととなりますので、かなり頻繁に借りられていることとなります。

食の安全に関するものについては150冊、21年度購入しましたがけれども、この150冊というのはある程度用意していますので、全体的には54タイトルということで、予算的には今、1冊あたり平均1,800円程度なものですから、それから換算しますと約27万円で食の安全に関する資料が購入されているのではないかといったところです。

このように市民の食の安全に対しての関心は非常に高いと感じております。またそれからこそ図書館としまして、市民の皆さんのこういったご要望にこたえるために新しい資料を継続して購入していかなければいけないのではないかと考えております。食を取り巻く環境はやはり変わってきておりますし、常に新しい主張や運動、さらには統計資料といったものも出版されておりますので、今後とも新しい情報を提供し続けるといったことは図書館の使命でもあるのではないかと考えております。

以上です。

【三輪座長】 ありがとうございます。

どんどん行ってしまうかもしれませんが、地産地消を学ぶ講座の開催についてのご意見に対しては何か。

【生涯学習推進課】 生涯学習推進課です。よろしくお願いします。

生涯学習推進課で行う講座につきましては2種類ありまして、1つは料理をしない講座です。地産地消に絡むものが多いんですが、闘茶の体験、お茶とワサビの歴史に関する講座などがあります。もう1つは、実際に料理をする講座です。これは民間の料理教室などと違しまして、単なる料理の技術向上を目的とするものではありませんで、食の安全はもとより環境に配慮したエコクッキング、子供の成長に必要な栄養について学びながら料理をする食育の講座ですとか、男の料理教室などがありますが、男女共同参画に配慮した講座ですとか、異文化理解の点から地元に住んでいるイタリア人シェフに料理を教わ

りながら一緒にイタリアの話をしながら食べる講座ですとか、さまざまな目的の達成のために料理という手段を使って行っている講座ですので、単なる料理教室ではないということです。それから、生涯学習施設が市内に38ほどあるんですけれども、1つの館当たり一、二回の料理講座ということになりますので、民業圧迫の点についてはご理解を願いたいと思います。

以上です。

【三輪座長】 ありがとうございました。

一応、一通り聞きたいんですけれども、農業体験教育事業で、これは資料を見ていると農業振興課さんでも生涯学習推進課さんでもやっているようなんですけれども、どちらからお答えいただけるのでしょうか。

【農業振興課】 農業振興課でお答えします。

農業体験教育事業なんですけれども、私どもは、小さいころから農に親しんでいただいて農業への理解を深めていただきたいという思いから、農業体験教育については主に子供であるとか親子であるとか、そういった皆さんを対象にした実施をしているわけなんですけれども、昨年度42回ほど開催をさせていただきましたが、大人についてのそういう事業があるかということでございますので、大人についても昨年度は4回ほどこういう体験教育をさせていただいているところでございます。

いわゆる大人の皆さんが余暇を利用して農業を経験したいというご希望は随分ございますものですから、私どものほうとしましてはこういう農業体験教育の事業とはまた別に市民農園の整備事業ということも実はいたしております。現在、今年の3月末で73カ所の市民農園を実は開設をさせていただいております。これは市が開設ではなくて、余剰の農地を持っておられる農家の皆さんが開設をするわけなんですけれども、私どものほうもその開設経費について助成をさせていただいているということでございます。現在2,000区画を超えるそういう市民農園の区画がございまして、これについてはたくさんの皆様が実際、休日等に家庭菜園のような形で農作物を栽培されているという実情でございます。

よろしゅうございましょうか。

【三輪座長】 ありがとうございました。

最後に22年度新規事業がないのはなぜかということなんですけれども。

【事務局】 そこの下にあります3年計画だからということなんですけれども、大体それと同じような意味で今回、中長期的なプランをつくりたいということで、アクションプ

ランをつくるときに、平成21年度から23年度までということになりますと、策定は平成20年度ということになります。その時点で22年度の新規事業というのはなかなか考えつかないというのがほんとうのところだと思います。

この3年計画のプランを考えたときに一番問題だったのは、中間期の報告とか、22年、23年のときに新規事業として出たときにどういう形で皆様にお知らせするかということなんですが、ホームページとかプリントという形でその時点でお知らせしようということになりまして、今回、皆さんのお手元の資料、平成21年度の取り組み状況の報告、こちらのA4の横のやつがあるんですが、こちらのほうに事業名のところに小さく平成22年度新規というのが実は2つあります。健康づくり推進課さんがやっています食育応援団登録制度というのが1つと、食品衛生課の保健福祉センターでのマタニティー教室にて食の安全講座開催というものが2つ、平成22年新規ということで事業として出しております。

以上です。

【三輪座長】 ありがとうございました。

ご意見について順番にざっと答えていただいたんですけれども、海野委員、どうでしょうか。よろしいですか。ご納得いただけたと。

【海野（俊）委員】 いろいろ言いたいことはいっぱいありますけれどもいいです。

【三輪座長】 ほんとうにすみません。時間がなくて申しわけないんですけれども、今の意見の中に、例えば未利用資源みたいなものを何とか利用できないかとか、いろいろなご意見があったと思いますので、できる範囲でまたいろいろ考えていただきたいと思います。

次に岡崎委員からご意見いただいていますので、簡単に説明をお願いいたします。

【岡崎委員】 岡崎です。

今日、ホームページを見たり、あの後、いろいろこれを書いた後に少し考えたり、調べたりしたことがあったので3つ質問させていただきたいんですけれども、1つはわかりやすくなってよかったと思うのと、イベントとかフェアとか、いろいろなことが行われているというのは最近、この1年ぐらいよく思っていました。

現在3歳とゼロ歳の子供を育てているので、そういう生活をしている消費者だと思って聞いていただきたいんですけれども、小学生対象のイベントが大変多いのと人数がやはりそんな大量ではないということから、イベントとかフェアがもしかして同じ子ばかりが参加しているのではないかとちょっと思います。というのは、2歳とかゼロ歳のそういう子

供向けのイベントなんかでも早い者順というか、先着順の場合だとよく同じ人ばかりが、あっちの公民館もこっちの公民館も私、行くんですみたいな子が必ず周りにいて、おそらく小学生になってもそういうママというのはそういうふうになってしまうので、やはり当然、いろいろな経験を自分の子にはさせたいんですけれども、そう思うのが親心だと思うし、それはいいことだと思うんですが、やはり同じ気持ちでも仕事をしていて忙しかったり、週末しか広報が見れないとか、賃貸で家に広報が入るのが遅いとか、いろいろな事情があるので、やはりいろいろな子が同じように体験できるように少し注意というか、締め切り期間とか、抽せん制とかにしてもらいたいと思います。

あと、3歳ぐらいというのは幼稚園探しというイベントとか1つの行事みたいなものがあるんですが、幼稚園というのはわりと食育という感じの教育よりも袋から分けたお菓子を渡すようなところがあって、やはり保育園とかのほうが給食室があって手づくりということで、管理が多分、違うんだとは思いますが、幼稚園についての扱いをちょっと知りたかった。

もう1つは、図書館のほうから先ほどお話いただいたんですが、図書館に10日に一遍ぐらい行くんですが、3カ所ぐらいよく行く図書館がありますが、子供向けのコーナーではとりあえず食に関する本とか、おはなし会で食がテーマということはあまりなくて、生活で身近に感じるものがすごく少ないです。幼稚園や保育園に行ったときに、子供向けのパンフレットと書きましたけれども、食育のこういうパンフレットを見ることもないですし、あまり生活に密着していると感じないです。

それで驚いたのは、ホームページとか名刺とかに載っていたんですが、やさいのようせい、NHKの子供番組に使われているんですが、これのロイヤリティーを多分払っているということだと思いますが、それをターゲットにしている年代は多分、うちの上の子、3歳の子は知っていて絵本も持っていますから、幼稚園とか小学校、低学年ぐらいの子までが一番知っているキャラクターなのに、そういうロイヤリティーをきちっと払って使っているにもかかわらずそれをあまり、そういうターゲットの層の暮らしをしていて見ないというのはちょっともったいないのではないかな。図書館とかでのおはなし会でそれを使われることもあまりないですし、もう少し身近に感じるようにしていただきたいという3つです。お願いします。

【三輪座長】 ありがとうございました。

幾つか、主に大きく3つほど多分ご指摘があったと思うんですが、どなたか答え

ていただける方は。

イベント、フェアはいろいろなところでいろいろな課でやっていて多分、各課でだれが来ているか把握していないのでその辺がなかなか難しいのかと思うんです。例えばイベント、フェア、同じ子ばかりになってしまうのではないだろうかということなんですけれども、その辺は実状的に何かそう感じているとかそういうことはありますか。あるでしょうか。ちょっとわからないですか。

これは考えてみるとなかなか難しい。イベントを企画する課が同じだったら来る人を把握できるかもしれませんが多分、いろいろな課でいろいろなイベントをやっていて、それぞれのところでうちの課ではこの人は初めてと思っているのかもしれないけれども、トータルしてみたらこっちの課のイベントにも同じ人が行っているということは確かに十分あるのかもしれないという気がしたんです。やはり先着順だとそうなりがちなんではないでしょうか。抽せんにするとか、非常に難しい問題、答えていただくところはないですか。

【岡崎委員】 多分、広報に載せるときとかにこういうイベントが初めての方を優先しますとかと書いてくれるだけでも、おそらく申し込むときに親の方のほうがちよっと気にするというか、うちの子、ほかの何々というイベントに参加しているんですけどもいいですかみたいなことを言ったりするかと思うので、書いてもらうだけでも違うかとは思いますが、良心的な問題というか。やはり熱心な人はほんとうに申し込みの日というところとすぐかけろ方がいるので今後、考えていただきたいと思います。すみません。

【三輪座長】 とんでもない。非常に大事なことです。貴重なご意見だと思います。抽せんにしてしまうほうがいいのかもしいいし、やはり他のイベントにというか、難しいな、何かそういうことも書いていただくか、申し込みのときに確認するとか、ぜひ何か少し考えていただければと思います。

幼稚園と保育園の違い、これはおやつの与え方とか何かが随分違うのではないかということですね。その辺はなぜ違うんだろうとか、その辺のことが説明できる方は。

【保育課】 保育園関係です。公立の保育園の場合、給食は自園方式でやっております。調理員がその日の給食を調理しておりますので、やはりそういう意味では私たちは毎日、保育園の友達や先生たちと一緒に給食を食べること自体が食育だということで考えております。その点では保育園の中では食育ということは常に考えて私たちもやっているつもりではおります。

幼稚園のほうはちょっとはつきり中身のことはわかりませんのでここでは申し上げられ

ませんが、保育園の中ではおやつも手づくりのおやつをつくって提供しています。袋のお菓子を与える場合もありますけれども、お菓子の成分、栄養価等も業者の方からちゃんと吟味されたものが納入されるシステムになっておりますので、やはり安全なもの、例えば食品で言うと国産のものを使うとか、そういうことについては栄養士、調理員、園の職員ともにみんなで検討しながら日々の食育に関する調理業務はやっております。

【三輪座長】 ありがとうございます。

幼稚園の担当の方はいらっしゃるのでしょうか。では、ちょっと簡単をお願いします。

【教育総務課】 教育総務課長の津田と申します。

今日、急なご質問だったものですから担当を連れてまいっておりません。正確にお答えできませんので、後ほど文書で回答させていただきます。

【三輪座長】 ありがとうございました。

保育園は多分、給食室があって食事をつくるしおやつをつくる。幼稚園は多分、基本的には給食室はないんですか。僕もよく知らないんですけども。そういう違いが大きいのかと思います。

あと、図書館のほうで子ども向けの食のテーマのものが少ないのではないかというご質問なんですけれども。

【中央図書館】 確かに絵本全体の中ではその一部なものですから少ないのかとは思いますが、ただ絵本は絵をかいた人の順に並んでいるものですから、その中で食の安全に関するものを見つけ出すことはなかなか難しいところもあるのかもしれません。ぜひとも職員のほうにお気軽に声をかけていただきたいと思います。職員が、検索をしてその絵本のありかへご案内するという形ができますので、ぜひ職員を使っていただければと思います。

例えばやさいのようせい等をおはなし会でというお話もございましたけれども、1対1で見せるほうがいいもの、例えばおはなし会のように大勢の方で見た場合にパステルカラーですと遠くの方はちょっと見にくいということがあります。児童担当者にこういったご意見があったということにつきまして説明させていただき、食の安全、食育等に関するような子どもの絵本、こういったものの充実につきましても、あるいはおはなし会につきましてもまた検討させていただければと考えております。

以上です。ありがとうございました。

【三輪座長】 ありがとうございました。

岡崎委員、よろしいでしょうか。

【岡崎委員】 やさいのようせいをホームページで使っていてポスターとかもあるんですけれども、子供向けのパンフレットみたいなものは全然つくっていないので、パソコンを開いて見る年齢の子たちに普及しないなど。それにもかかわらずロイヤリティーを払っているのがもったいないのではないかなと思うんですけれどもどうなのでしょう。

【三輪座長】 すみません、やさいのようせいというのはちょっとわからないんですけれども、その辺はどうなんですか。ロイヤリティーは、パンフレットはつくれないんですか。

【事務局・山田】 平成21年度から、もともとはホームページのマスコットキャラクターとしてやさいのようせいを使わせていただきました。これは、もちろん食に関係してとても子供にも人気があって、子供だけではなくて大人にも非常に人気があるというのと、実は作者が静岡市の出身だということで、そういう経緯があるんですけれども、契約的なことを言いますと、あくまでもあれはホームページの中だけで使用可能という契約で現在は使わせていただいていますので、ホームページの中かホームページを宣伝する目的でしか使えないんです。その範囲内で名札ですとか、今、名刺にも入っていますけれども、そういう使い方をしています。

食中毒予防のポスターも、それとは別に今度は食中毒のポスター用ということで新たな契約でやっているの、何かほかのことに使うとなるとまずそこで契約が発生してしまい、なかなかすぐにほいほいとは使えないんですけれども、先ほど言いましたようにPR効果は絶大です。やさいのようせいをホームページに出してから随分とPRもしやすくなりましたし、その効果もあらわれていまして認知度がすごく上がっておりますので、これからはやさいのようせいを使っておもしろいPR方法があったらどんどん企画していきたいと思います。

【事務局・永井】 ちょっといいでしょうか。やさいのようせいの関係なんですけれども、先ほどアクションプランの冊子のセンスが悪いということで話がありましたけれども、私もやさいのようせいの関係は全然知らなかったんですが、今、話をしました山田が、小さい子供さん、岡崎委員と同じで持っていて、そういった委員のようにやさいのようせいを知っている方に少しでもホームページとかそういったものを見ていただきたいという目的で最初やりましたので、子供さんに食いついてもらいたいという発想では最初なかったということをお願いしたいと思います。

【三輪座長】 ありがとうございました。よろしくお願いします。

では、すみません、青山委員、ちょっと時間が押していますので手短にお願いします。

【青山委員】 青山です。

まずアクションプランの事業内容を見て、パンフレットやチラシをつくってただ配布というものではなく、参加型や体験型のものが思ったよりも多かったのによかったと思いました。

うちに学校給食をいただいている子供がいるのでちょっとお尋ねしたいんですが、地産地消の食材ベースで24.2%、去年、この品目数だったんですが、これは事業取り組みを始めたことによって増えたのかということと、食の安全教室というのを65校で開催しておりますが、この中で廃棄する給食は減ってきたのか、効果が上がっているのか、食の安全に対する関心が高まったのかということをお伺いしたいです。

平成22年度新規の食育応援団というのがあるんですが、これは登録制で公募とあるのですが、活動内容はどのようなものかということをお伺いしたいと思います。

以上です。

【三輪座長】 ありがとうございました。

学校給食の関係、地産地消、学校給食課さんでよろしいでしょうか。

【学校給食課】 学校給食課です。

地産地消率、ここに書いてありますように平成21年度が24.2%でしたが、19年度が18.6、20年度が21.3、今年度が先ほど委員さんがおっしゃいましたように24.2ということで、平成22年度、25%以上ということで今、目標を掲げて取り組んでいるところでございます。ただ、地産地消、青果だけではなくて、野菜だけではなくて加工品も含めてのものでございます。

もう1つ、残菜の、廃棄される量は減少しているかという問いなんですが、これは今、年々減ってきていると聞いています。ただ、学校給食においては、子供さんに出す献立の中で脂分の多いもの、脂質の多いものを出すと残菜はグッと減ります。和風みたいなもの、例えばヒジキとか野菜の煮物とかを出すとグッと増えます。献立にも残菜、残る量は非常に影響されるわけですが、ご承知のとおり学校給食は教育の一環として給食を提供しているところでございます。バランスのいい食事をしていただいて、いろいろなものを食べて味覚を養っていただくことも学校給食の目的の1つでございますので、残菜を減らすために献立を変えるということはないと思います。

ただ、その減らす手段として食育ということを今、重点に取り上げてやっております。食の大切さ、バランスのよい食事などにつきまして子供を指導しまして、地産地消、地場の食材を使った給食を教材として学校教育の中で使っていただくよう取り組みを今、しています。そういうことを通して残菜、残ったものが少なくなるというふうに取り組んでいるところでございます。

【三輪座長】 ありがとうございました。

あと、食育推進マップ、食育応援団。食育応援団登録制度はたしか22年度新規事業になっているみたいですが、これは健康づくり推進課さん、お願いします。

【健康づくり推進課】 健康づくり推進課です。

マップではなくて応援団のほうでよろしいでしょうか。

【青山委員】 はい。

【健康づくり推進課】 応援団なんですが、食育を推進していくのは市民一人一人なんです。地域とか保育園、幼稚園、学校で食育を進める上で、協力ですとか手法を必要とする人たちへの利便性を図るということで、食育活動がスムーズに進められるように応援する応援団を今、考えております。

登録する方なんですが、いろいろな分野があるかと思います。調理実習ができる、お話ができる、農林水産の体験ができるというのは見学をしてもらってもいいです、土地の提供ができるといういろいろな分野があるかと思います。その分野ごとに少し分けまして登録をしていただきます。もちろん食育を推進している個人ですとか団体、NPOさん、あるいは企業さん、どなたでも結構です。食とか農の知識や技術を現在、持っているものを生かしていただいて、地域からの要望に応じた取り組みに協力していただくというシステムになっています。

行政、健康づくりとしては紹介をするという役割をします。登録をしていただきましたら、例えば食育イベントにて活動発表をしていただく、あるいは年1回、活動発表会ですとか情報交換会をする、ホームページに活動報告をしていただくというふうに考えています。

現在、要綱をつくるために政策本部と協議中ですので、でき次第すぐ登録を開始する予定です。

以上です。

【三輪座長】 ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

それでは、市川委員からご意見をいただいていますので簡単に説明をお願いいたします。

【市川委員】 私は今回から委員に加わりまして、アクションプランを作成するときに参加しておりません。したがって非常に誤解していた部分もあるかもしれないのですが、時間があまりありませんので少しまとめてお話をさせていただこうと思います。

私の挙げさせていただきました意見は10ページにあるんですけれども、一番最初の○の2つは文言といいますか、公の文書なのでもう少し誤解のない表現をしていただきたいということですのでご検討ください。

残りのものはすべてそうなんですけれども、私自身が管理栄養士として、食育も含めて、健康教育のほかに食育に関しても活動を実際に行っております。そのときに、専門の立場から言わせていただきますと、栄養管理というものと安全・安心、その部分は分けて考えております。ですので、後でござんいただければと思うんですが、例えばこの冊子の13ページのところでしたかね、レシピ集を作成するですとか、27ページだったと思うんですが、病院さんの患者への栄養管理の指導というところまで安全・安心に含めることに少し違和感があります。

もちろん先ほどの食育に関してお話があった中で切り離せない部分、つながっている部分というのがあるんですが、例えばイベントもたくさんありますけれども、一つ一つの事業における安全・安心アクションプランならではの目標、目的というものをもう少し明確にしていかないと、そこには期待する結果というものもあるはずですし、それによって評価というものも生まれると思うんです。すべて食育という言葉で丸めてしまいますと、ほんとうに安全・安心ということに対して何をしたいのか、それについて成果が上がったのかということが、生産、流通、消費、管理すべて含めてなかなか見えてこないのではないかと、このことをちょっと思いましたので、栄養管理、栄養指導というところまで含めてしまうのかという疑問と、もう少し目的が前に出てくるように、それに対する結果が評価できるように今後、利用して行ってほしいと感じました。 以上です。

【三輪座長】 ありがとうございます。

非常に難しい問題だと思いますけれども、管理栄養士の立場から栄養管理というものと安全・安心というのは分けて考えたほうが明確になるのではないかと、それぞれの事業を何のためにやっているのか、もうちょっと明確に、これらの事業はすべて安全・安心につながっているはずなんですけれども、多分、この事業を行うことによってどうい

う形で安全・安心につながっていくのかというのはこのパンフレット、アクションプランを見ただけではわかりにくいというご意見だったと思うんですけども、これは事務局から答えていただく以外ないでしょうか。

【事務局】 ごもつともだと思います。目標を明確にしてもらいたいということなんですけれども、例えば部長からのあいさつでありましたけれども、食中毒が非常に10何件も発生しているということなんです、例えばうちのほうで衛生講習会とかそういうものを倍増して監視、収去、そういったものを幾ら増やしても、結果的に食中毒が何件も出たりということになりますと、評価というのは一体どこにあるのかといつも自分自身も思ってしまうんですが、最終的な目標はやはりきちっとしていかなければいけないと思っています。何かしら皆さんが、委員の方が見ても、これなら目標に向かっていっているということがわかるように事務局のほうでも工夫していかなければいけないと逆に思っております。答えになっていませんけれども、よろしくお願いします。

【三輪座長】 ありがとうございます。

このアクションプランにかかわっている課の数からいっても、食というものがいかに広い分野にわたっているかがわかると思うんです。そこを事務局が多分、取りまとめてやっていると思うんですけども、なかなか各課、これだけの広い分野のものを明確に目標を持ってというのは確かに難しいことなんだろうと思います。結果的に食中毒が減るとか、食に起因するような健康被害が減るとか、みんなが安心できるということが最終目標だと思いますので、ぜひそういう方向に向かって少しでもいけるように、特に今日の意見交換会の意見なんかをぜひ取り入れてもらえればいいのではないかと思います。

よろしいでしょうか。

すみません。私から最後にたわいもないことなんですけれども、計画にⅠ「食の安全確保のための施策」の2番の「危害分析に基づき、重点監視指導を実施します」の中に、卸売市場品質管理高度化マニュアルを作成するというのがあって、このプランでは21年度に作成して22年度はマニュアルに基づき実施している予定になっているんですが、報告書のほうに全く抜け落ちているのでこの辺、どうなっているのかということだけお聞きしたいんですけども。

【卸売市場】 卸売市場の渡辺といいます。

私も4月に来たばかりで勉強不足でしたのであれなんですけれども、今年については食中毒の関係で出席させていただいたということで、アクションプランは行っておりますが

この卸売市場品質管理高度化マニュアルというのは取り上げていませんでした。早速、前任者あるいは上司から勉強しまして、食品衛生課さんを通じて報告させていただきたいと思います。

【三輪座長】 わかりました。

さっきも言ったんですけれども、調査票を事前に出していますのでできれば、この場で回答を用意していただければと思いました。そういう方向で次回からよろしくお願いいたします。

最後に海野フミ子委員から一言発言したいということですのでお願いいたします。

【海野（フ）委員】 私はこの静岡市の食の安全アクションプラン、非常によくできていると思いました。食の安全はこういったことで守られていくだろうと理解しまして質問はなかったんですけれども、ただ今後の取り組みの中の要望ということで座長が先ほどお話になりましたので2つほど要望したいと思います。

24ページにありますように、農作業の問題なんですけれども、消費者と農作業の問題、先ほど海野委員からも出ていたと思います。農作業を大人が体験する場がなかなかないではないかということなんですけれども、農地法が改正されて農作業をしやすくなってきたと思いますし、JAとしても職員のOBを中心にして来年度からの取り組みもそういった消費者の方たちに農作業を体験していただく場をたくさん設けるということで計画をしています。

私のところでは生産者と消費者の活動に非常に力を入れているわけなんですけれども、これが今、1カ所あって、今年、2カ所ということなんですけれども、ほんとうはこういった活動をもっとたくさんやっていただきたいと思います。でも、ほんとうはものすごく大変な活動で、もっとほんとうにやってもらいたいと思っているにもかかわらずやれるところはあまりないだろうと思います。

私のところは青大豆をつくるという活動をしているんですけれども、この間の土曜日も、とても暑い中でも、どうしても肥料を入れなきゃいけないし、土寄せもしなければならぬということで消費者と一緒に活動してまいりました。この暑い中だから気をつけてやってください、ちょっとでもぐあいが悪かったらすぐ休んでくださいと、冷たいものから日陰からいろいろ用意してやったんですけれども、それでもやはり熱中症の人も出てしまいました。

非常に大変な作業なんですけれども、やはりこういう活動をもっと増やしてほしいとい

うのが本音です。そうでないと、なかなか地産地消が進んでいかないのではないかな。でも、このアクションプランとはやはり違うと私は思っています。市川委員がおっしゃられたようにアクションプランとはちょっと違うんだけど、要望として出させてもらいたい。

学校給食のことなんですけれども、地産地消を学校給食にたくさん取り入れていかなければならないと思いますけれども、地場産のものを学校給食に取り入れていくというのはなかなか難しいことだということが学校給食課と話をしてみてよくわかりました。先ほどの話の中では野菜料理の日がとても残渣が多いという話でしたけれども、とても残念なことだと思っています。

私たちも学校給食に地場産を入れる活動をして1年に2品目、それもほんの少しだけ入れさせてもらう糸口がやっとできました。それをやりながら考えてみたんですけれども、例えば大根を1月に20キロぐらい入れていくんです。学校教育のほうでもし時間があつたら、その前の日に子供たちと一緒に大根をぬいて、下洗いをする作業を一緒にできたら、それが明日の給食に出たら、その大根をもっとたくさん子供たちは食べてくれるのではないかなと思ったんです。

そういうことができるのは農家に近い学校しかできないかもしれないですけども、農家に近い学校もかなりあるのではないかなと思うんです。そういう学校給食に少し地場産のものも取り入れていく、それを子供たちも一緒に体験をしていくという活動を給食課と学校教育課が取り入れていただければありがたいと思っています。このアクションプランとはちょっと離れるとは思いますが、要望として入れさせてもらいたいと思います。

【三輪座長】 ありがとうございました。

あまりアクションプランから離れてるわけではなくて、やはり食というのは総合的なものですので、そういうものをすべて総合しないとやはり安心、安全は確保できないのではないかなと思いますので貴重な意見だったと思います。

すみません。まだいろいろご意見があろうかと思いますが、ちょっと時間になりましたので一応この辺で終了させていただきたいと思います。

別にこの場合は、ちょっと質問事項が多くて厳しい意見もあつたりして市の行政に対して文句を言っているみたいな感じもあるかもしれませんが決してそんなことではなくて、安全な食品確保のために皆さん、市も担当者の人も頑張っていらっしゃることはよく理解した上で、もっと頑張りたいということ、ちょっと座長の司会が悪くて今後の提案という部分になかなか踏み込めなかったんですけれども、それでも幾つか貴重なご意

見があったと思いますので、今後のアクションプラン作成にぜひ生かしていただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

【事務局】 三輪委員、どうもありがとうございました。

それでは、事務局からお知らせがあります。今日の意見交換会の内容ですけれども、議事録として後日、静岡市の食の安全・安心ホームページであります「たべしずねっと」、こちらに掲載させていただきます。

また本日、委員の皆様からいただきました意見につきましては、パブリックコメントとして安全対策推進連絡会において協議を行いまして、可能な限り反映をさせていただきたいと考えております。以上でございます。

それでは、これをもちまして静岡市食の安全・安心意見交換会を閉会とさせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

— 了 —